

例題

症 例：68 歳の男性

主 訴：呼吸困難，意識消失

現病歴および検査所見：舌癌 T4aN2cM0 の診断にて、舌亜全摘術＋両側頸部郭清術＋遊離腹直筋皮弁再建術＋気管切開術を施行した。気管切開孔にはカフ付き単管カニューレを挿入し、ひもで頸部に固定した。術後 3 日目の夜間に気道狭窄音が増悪し、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) が 75%まで低下した。看護師が気管カニューレから喀痰吸引を実施したところ、咳嗽によりカニューレが事故抜去され、直後に呼吸困難となり意識消失した。救急当直医が到着した時点で呼吸停止、心拍数 15/分、SpO₂ 38%であった。新たに気管カニューレを挿入し、バッグを接続して陽圧換気を開始するも、SpO₂ は更に低下し心停止に至った。救命処置を試み、一時的に心拍再開を認めたものの、4 時間後に死亡が確認された。救命処置中に撮影した CT (図 1、2) を別に示す (CT の提示は省略されています)。

Q 1：日本医療調査安全機構での提言に準じていなかった医療行為はどれか。

- a カフ付き単管カニューレの使用
- b カニューレのひも固定
- c 看護師による吸痰
- d カニューレ再挿入
- e 陽圧換気

Q 2：CT 所見に関して正しいものはどれか。すべて選べ。

- a 皮下気腫
- b 両側気胸
- c 誤嚥性肺炎
- d 大動脈弓の石灰化
- e 気管内の挿管チューブ

Q 3：死亡確認後に取りべき対応として適切なものはどれか。すべて選べ。

- a 剖検
- b 警察への届け出
- c ご遺族への病状説明
- d 日本医療調査安全機構への届け出
- e 院内ゼネラルリスクマネージャーへの報告